

隻の船舶の總噸數五三、四〇〇萬噸、内外國貿易の船舶
四九、八〇〇隻、此噸數一一、五三三萬噸の出入船舶を算
しその貿易は輸入六一、九五四、四九八磅、輸出六一、三
七二、〇〇〇磅に達して居る。香港なる孤島の消費生産に

よつては如何にしても斯の如き數字は生れない。これは全
く仲繼貿易港としての使命を與へ、その發展に努力した大
英國民の不撓不屈の精神が如何に偉大なる効果を齎したか
を立證してゐる。(元)

ミシガンよりニウヨウクまで

東京市技師 江 守 保 平

古い日記を引出してどこもつかず讀かへしてゐるうちに偶然一九二六年六月頃の頁をめくりあてその夏
米國各洲にわたり自動車旅行をしてゐた時分の記事が出てきた。段々讀んでゆくうちに次第に當時の氣分に
引もどされ色々な思出が次から次へと走馬燈の様に浮んで来る。恰度その時分私はアナバーでミシガン大學
のフランチャード教授のもとに世話になつてゐたがかねてから氏に勧められるままにその夏を道路行脚に費
したわけである。アメリカにわたつてからその時はもう可成りになつてゐたがその年自動車で旅行に出て始
めてアメリカの所謂 Motor Age をまのあたり見せられその繁榮振りに驚かされてしまつた。實に夏のハイ
ウエイは現代アメリカの縮圖を見てゐる様な氣がする。少しく舊聞ではあるが此旅行記のうち面白そうな一
部分を引抜いてここにのせてみることにする。

かねてから東部地方の道路状態を視察しやうと考へてゐる だが、此夏にその期を得る事が出来た。それに恰度六月末

にニウジャーシー洲のアトランチックシチーに A.S.T.M. の例會が催されるので、これにも都合よく此夏を東部地方の視察旅行に費すことにしたのである。

初めは汽車で行かうと計畫もしてみたが、あまり月並だし、船で行けば行けないでもないが時間がかかりすぎてそれに道路をみるにはあまり縁がなさすぎる。そこで思ひついたのが自動車旅行、早速そろばんをあたつてみると日數を餘分にかけても二人連れとしては結局この方が格安ですみそうだ。それに途中道路の視察もしながら行けると云ふので早速相談が一決した。

乗用車は豫て乗り馴らしたフォードのロードスター。馬は瘦せたりと雖も自動車の端くれには相違ない。只長途の旅行には餘り感心出来ないし、それに派手な東部のハイウェイで他の車と較べられると、如何にも貧弱な觀はなきにしもあらずだが、どうせこつちは毛色もちがうしいくらい、車につてみた所がねつからはぢまらずと勝手な理窟をつけて之で我慢することにする。

一三ヶ月分の衣裳をトランクに詰めこみ、これを車の後にくまりつけ、又、車は一日がかりで眞黒になつて検査並びに修繕をして之ですつかり支度も出来上つた。次に自動車旅行の羅針盤たる地圖や旅行案内書を仕入れなければならぬ。此國には A.A.A. 即ちアメリカンアウトモビルアソシエーションなる組合があり、全國の自動車所有者は皆之のメンバーになつてゐるが、こゝで毎年旅行者のため各州の精密な道路圖と案内記とを發行してゐる。早速此町のオフィスにかけつけ、地圖などとりそろへ、又途中の道路の様子などを聞き都合のよい様な道順を選定してもらつた。

此ルートによると此アナーバー町を出てすぐ東に途をつてデトロイド市に出で、こゝから自動車諸共汽船にのつてイリー湖を横ぎりバアフロウ着、これから南に下つてニウヨウク洲縦斷ペンシルベニア州に入り、ヒイラデルフィヤを通過し、更にニウジャーシー洲を横ぎつて、アトランチックシチーに着茲にしばらく滞在してから今度は北に

上つてニウヨウク市に入ると云ふ段取りである。

六月二十日——天氣は上々である。ガソリン、オイルと瘦せ馬にも充分飯を食はせラヂエーターには水を又タイヤ一の空氣もすつかり検査をすませ、いよく十時頃出發と云ふ手筈になつた。恰度今日は日曜にあたつてゐたので、

豫て馴染のドクター、イデを始めその他二三名が他の自動車でデトロイドまで見送つてくれることになり、都合二臺轡を並べて懐しのアナーバーを後にした。デトロイドはミシガン洲の東端であるが、此市とイリノイ洲のシカゴとの間は交通すこぶる頻繁で、此兩市をつなぎ M17 と M28 と云ふ二つのミシガン洲道が走つてゐる。此うち、始めの M17 と云ふのは歴史も古く、従つて昔から知られてゐるものであるが、道巾もせましそれに近頃は舗装も大分いたんで居るので具合がよくない。ごく最近に出來た M28 と云ふ方は、此春に開通したばかりのモダーン道路で、道巾は廣いし舗装も二十呎巾に全線コンクリートで固められ至

つて乗心地がよい。今日は此線をとることにした。昨夜の雨あがりにはほこり一つたゝず、それにまだ早い故かトラフィックもわづかしかないので、途中二臺で競争などしながら四十哩の道程をわづか一時間ばかりで、デトロイドの町はづれまで來てしまつた。市街に入る前に道端へ車をのりすてゝまづ一服する。

ミシガン洲殊にこの Wayne County は昔から混凝土道路には古い歴史をもつてゐるし、それに手入れもよし全てが整つてゐる。今度の旅行中でも此道路は最も氣持のよい路線の一つであつた。このウエインカウンティーはデトロイド市をとり圍んだ地方を包含し、此市を中心に四方八方へ混凝土の道路網を張り、殊にデトロイドとポンチアツク市をつなぐ道路は Michigan Super Highway と稱し、全幅員百四十呎で此國でも一番大きな地方道路とされてゐる。それに此ミシガン洲でもう一つ氣持のいゝのは道路標識である。路線番號は云はずもがな、鐵道や他の道路とのクロスシング及びどんな小さなカーブでも、極くわづかな勾配

でも、その標識には實に親切に注意が行届いてゐる。普段はあまり氣付かないが、知らない土地を旅行してみると初めてその有難さがわかつた。

小憩の後いよくデトロイト市へ乗り込む。此市はアメリカ唯一の自動車製造地で、最近目覺しい自動車の發達から、此國でも一二を争ふ工業市になつてしまつた。新しく發達した街だけに都市計畫もよく出來てゐるので、そのストリートシステムは非常に具合がいい。即ち Down Town の市役所を中心に、六本の放射線を等角度に山の手に走らせ、之等と結ぶに市の周圍に沿つて二本のブルバードが周らされてゐる。舗裝は殆んど全部がアスファルトで自動車の乗心地は至つてよろしい。

市内へ入つてからしばらくして、漸くダウンタウンに出た。車のある支那料理屋につけて、こゝで一同晝餐を共にする。門出を祝するため、シャンパンでも抜きたい所だが禁酒の國ではそうもならず、據所なくわづかばかりの支那酒を工面して間に合せておいた。連中としばらく無駄話な

どしてからこゝで別れることにし一同は又元來た途を引かへして行つた。同行二人いよく都見物旅行の暮はきつておとされる。先づ序幕は、こゝから船でイリー湖を横ぎるのだが、自動車を棧橋につけて自動車諸共船上の人となつた。

此航路は中西部地方からナイヤガラ見物や又は東部地方へ旅行する人々のため夏中は却々混み合ふ。それに自動車旅行のためにはむしろ近道にあたるので、近來此コースが流行してゐる様だ。船は一、〇〇〇噸位のものだが、遊覽船に出來てゐるので、内部の裝飾など却々感じがよい。喫煙室食堂などの設備も立派だし、安直に航海氣分も味へる。自動車の車庫も船底に都合よく設備されてゐるが、自動車を入れる際危険を防止するためタンクに入つてゐるがソリンは全部とりあけられてしまふ。出る時に又必要量だけ支給されるのだそうな。

間もなく碇を卷いて埠頭をはなれた。午後デトロイトを發つて翌朝對岸のパファロに着くことになる。此イリー

湖はカナダと合衆國との境界に位置し、東はナイヤガラ瀑布を以てオンタリオ湖に連なつてゐる。この湖の周圍にはデトロイト、トレード、クリープランド及バッファロの如き工業市が存在してゐるので、昔から船運の上からは却々重要な地位を占めてゐたものである。湖水と云つてもその大さ恰度我九州全島位に相當するので、大洋の上を航海してゐる様な氣がする。明日の英氣を養ふため早めに床についた。

○

二十一日——早く甲板へ出てみると、船はすでに湖を横ぎつて對岸に近づき模糊の内に夢の様なバッファロが迎へてくれる。高い建物に朝日が當つて、それが何とも云へない色にかがやいてゐる。此街はニウヨウク洲の西端に位置し、湖水に面して水利の便があるため此邊での商業の中心をなしてゐる。一般旅行者にとつては特別に興味ある所とも思へないが、我々の商賣用の方から云へばアスファルト舗装では古くから異彩を放つてゐる市であるし、又道路用

に一番廣く用ひられてゐる Buffalo Springfield ローラーの發祥地である。

わづかばかりの荷物をまとめて埠頭におり、こゝで自動車をうけとりガソリンニガロン宛を支給されて船におかわれる。自動車旅行はこれからそのシーズンになるので旅行者の車が澤山船の車庫につみこまれてゐるが、此中からフォードなどうけとるのは少しまりがわるい。自動車の前にぶらさゆである鑑札から判断すると實に各地から旅客が集つてゐるらしい。遠くカリホルニア又はフロリダあたりの車もみうけた。多くはナイアガラ見物の連中であるが遠く何千哩も自動車で旅行して來たものと見え車も大分によごれてゐる。

我々も折角こゝまで來たものだから寄途ではあるが、一寸ナイアガラ見物をしてゆくことにした。瀑布は此バッファロ市から北四十哩ばかりの所にあるのだ。船のついた所はダウンタウンで、こゝからメインストリートを二三哩北に走つて、ナイアガラバードと云ふのへ出た。此道路は

之から眞直ぐにナイアガラまで通つてゐるので、道順はわかりやすいが、古い道路で舗装の煉瓦や瀝青マカダムが凸凹で車は却々ゆれる、途中二三ヶ所でマカダムの修繕をしてゐるが、コールタールのコールドパツチングであつたらしい。

晝少し前にナイアガラに着いた。イリー湖から發したナイアガラ河は恰度こゝまで來てナイアガラ瀑布を形成し、更に下つてオンタリオ湖に流れおちるので、此河がカナダと合衆國とを區分して居る、橋一つわたればカナダ側へも行かれる。此瀑布は成程世界一と稱せられるだけあつて巾二、五〇〇呎、高さ一六〇呎もあるから大きいことは大きい、手取り早く云ふとダムをオーバーフローする流れである。それにあたりの景色があまりに文化的で華嚴や那智の様な莊嚴味は更にはない。我國の深山幽谷の瀧を見た眼からは瀧とは云ひにくい、むしろナイアガラダムとでも云つた方がわかりやすい。世界一好のアメリカ人には矢張り此方がいゝのかもしれない。兎に角、田舎者並に一と通りは有

難く拜見しておいた。瀧の下へ船で行つてみたり、高い所から寫真をとつたりする。或人に云はせると冬はナイアガラの方がよいそうだ。成程之が全部凍つたら随分見事かもしれない。

瀧を見ながら晝飯を喫し早速瀧にお別れして出發するこゝにした。元來た道をバファロまで引返し、今度は本道に出て、南へペンシルベニア洲指して向ふのである。之からアトランチックシチーまでは途中之と云ふ用事もなし途を急いでゆくことにした。

バファローを出てから間もなく山道にさしかゝり、米大陸の東部を縦に南北に走つてゐるアレゲニー山脈を突破しなければならぬのだ。ワソーと云ふ山中の小部落を通つた時分から道は段々急になつて來たが、山に入つてからは景色もよくなつて旅の憂もよい具合に慰される。

シカゴ、デトロイト邊からニウヨウクに出る本道と云へばイリー湖の南岸に沿ふて眞直に走る道路で、今度通つた路線は近道ではあるがむしろ裏道にあたる。それでバファ

ロからフライデルフィアまで約四〇〇哩の間、殆ど之と云ふ大きな街もなく、あたりの気分もまるで都ばなれがしてゐる。それに山又山で時にはまるで箱根の國道を通つてゐる様な所もある。道路は山の間をぬつてゐる所が多いので勾配も可成り急に、中には二十分の一位な所もあつた。然し路面は大部分舗装されてゐてほこりは少しもたゝない。

平地では我々の車でも少し虐待すると四五十哩位のスピードを出し、外の自動車にも負けないが、坂道にさしかゝると大抵追越されてしまう。殊に長い坂になるとトップでは上りきれなくなり、ローで無理やり押し上げなければならぬ。ないし、實際旅行に出るといゝ車がうらやましくなつてくる。

パファローを出たのはもう四時頃であつたが、道はよしそれに途中大きな街もなかつたので、手間どれず暮方八時頃には百十哩走つてバスと云ふ小さな町へついた。ニウヨウク洲ではあるが、山の間にある日本で云へば山のやどでも云ふ様な氣分の落付いたよい所である。恰度都合よく

出來たばかりと云ふ新しいホテルがあつたので、長旅の疲を休めるには格好の宿であつた。近所の車庫に自動車を休ませてから、旅装をとき風呂で長々と手足をのばしてよい氣持になる。途中二人で代り番にドライブするのではあるが疲は却々ひどい。本日の行程一九〇哩。

二十二日——眼をさますと、昨夜みえなかつた周圍の山々が逼つてゐて、如何にも日本の温泉にでも居る様な氣がする。それに昨夜雨がふつたとみえて道はずつかりぬれ、それに今朝の朝日が映えてすがすがしい。身仕度を整へてから、質素な食堂においてみると、外にも五六組自動車旅行らしい連中が、既に食事中で相旅とでも云はうか、兎に角、せわしない汽車旅行では味はへないゆつたりした氣分だ、食事も早々に自動車を引出し、ガソリンを詰めたりオイルを差したり又地圖も用意してすつかり支度が出来上つた。

九時出發。街を出はづれるとすぐに又山道だ。それでも

路面は殆んど皆混凝土なのでドライブはごく樂である。只所々で古い瀝青マカダムの道に出會すと一番閉口する車の動搖もはげしく思ふ様に道がはかどらない。然し此近邊のニウヨウク州では之が割合に少いので非常に助かつた。

暫くしてからベイントポストと云ふ村落についたが、ここでニウヨウク州にわかれて、ペンシルベニア州に入るのだ。

暫く中西部地方の道路にならされた眼で段々東部地方の道路を旅行してゆくと、その間に随分甚だしい相違のあることに氣がつく。即ち中西部の道路は直線的な駄々廣いもので、廣漠たる平野の眞只中を單調な混凝土の帯が何哩も何哩も限りなく續いて居る。所が東部のものは道中こそせまいが、路線は屈曲や變化に富み多くは瀝青マカダムで固めてあるので何となく雅致がある様な氣がする。

東部地方の諸州はその道路を計畫する時分にその交通の大部分が馬車であつたのでカーブ、勾配、又は鐵道との交叉點乃至は鋪裝工法に於てその當時の交通に適してゐる。

所が中西部地方は比較的新開地なのでその設計に新味が多いのである。

ベイントポストをすぎ二哩位行つてから長い長い Detour (廻り道) に會つて閉口した。恰度古いマカダムを混凝土道に改築するため、外の土道を五哩も廻らなければならぬ。道は遠し而も道はわるいと來て居るのではかどらないこと夥しい。旅行中此種のデツアーに何度も出會はしたが、此奴が一番閉口する。行程の豫定を組むには豫め豫想しておかなければならない。本道に出てから暫くは出來たての混凝土道の上を走つたので、その間に可成り時間をとるかへすことが出來た。

ウキリアムスポートを通過してから、或田舎家で晝飯をとる。夏場はどんな田舎道でも道路に面して自動車相手の小さなコーヒー店が出來る。主に近所の百姓家の内儀さんの内職で、新しい果物やハツトドツグと稱するサンドイツチなど用意してあるので一寸氣持よく休める。半日ドライブしてから疲れた身體を眺めのよい場所にもたせ、近所の

百姓連と無駄話するのも一興だ。殊に此近邊は日本人などめつたに來たことがないそうで、ここの内儀さんなど却々親切にしてくれたので非常に氣持がよかつた。

ここまでは約百哩の間有名な Horse Sho Route に沿ふて來たのだが、ここで之にわかれてサスケハナ河の狭谷を傳はる。此河はベンシルベニア州に始まりメリーランド州で海に落ちる小さな河で船運などには適せないが、その沿岸に沿ふ景色は有名なものである。恰度京都の保津川に沿つて走る様な氣のする所であるが、百哩ばかりこんな道をたどりベンシルベニア州の首府ハリスブルグに近づいた。此邊から眼界ひらけて次第に平野に下つて來たことを思はせる。途中の道はサスケハナ河のあちら側を走つたり又こちら側に來りするので、二三ヶ所河を横ぎつた。皆立派な橋で自動車は一臺に付二三十仙の通行税をとられる。こちらでよく見る所であるが、街道筋の大きな橋になると州監督の許に請負者に工事を請負はせ完了後數十年間は管理權を與へて通行税をとらせる。その間に工費の償還全部終

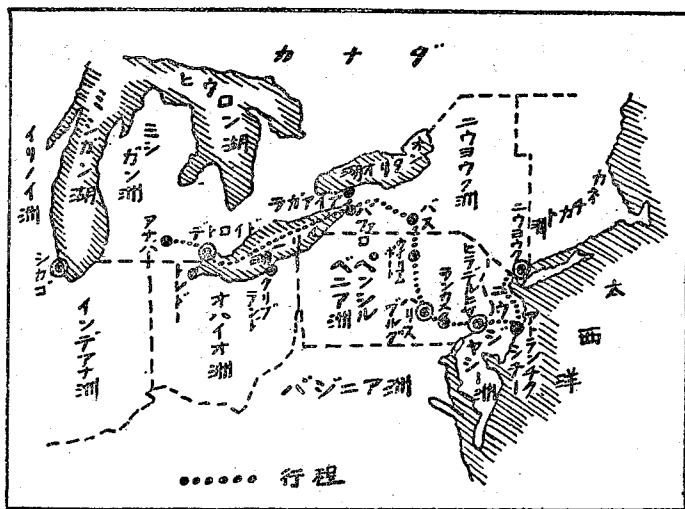
了してその後は州に引渡されるのであるが合理的な面白い方法だ。

パファロを出てから之までに殆んど街らしい街を通らなかつたので、ハリスブルグに來た時は一寸間誤付いた。この街は此洲の首府で此邊一體の農業の中心地である。成程アレゲニー山脈を出はずれて、此平野に下つてから至る所畑ばかりで、程んど寸地を余さず耕されて居る。それに此近所は昔オランダ人の移住した所だそうで、未だにその風習を傳へ、姉さん冠りみた様な帽子に長い裾の着物を着た娘さん達が、長い鋤を器用に使つて畑を耕して居る光景はミレ一の繪にでもありそうな景色だ。中西部の大陸的耕作法になれた眼には非常に面白く感ずる。單位面積からとれる作物の量では此地方がアメリカ中でも一番だそうだ。

ハリスブルグを過ぎてからは、道路もよくなる代りに交通も可成烈しくなつて來た。それに途中も殆んど町ばかり連つて居るのでスピードも思ふ様に出せない。

こんな具合で途中の途もはかどらず、又時々道路工事に

なやまされたので豫定が案外おくれ、ランカスター市に



自動車旅行行程略圖

テルファイヤやその他の大都會をひかへてゐるので、小さい

ついたのは、もうそろそろ燈のつく頃に なつてしまつた。此街で宿する事に する。こゝは近所にフライ

くせに何となく悪ずれのした町だ。車は例により宿のすぐそばの車庫に收め、自分達は下町のホテルに旅装を解いた。都會臭味のするあまり感じのよくない宿ではあるが據所ない。うるさい街の雰圍氣中に床に入つた。行程二三〇哩。

○

二十三日——疊つて居る。よくねられなかつた故か、何だか朝つぱらから氣がむしやくしやするので、朝飯もくわずに宿を發つてしまつた。自動車旅行の時はどうしても靜かな宿をさがさなければ駄目だ。昨夜も山の手の方にホテルをさがせばよかつた。どこか途中で朝飯をたべ様としたが、運のわるい時は却々見付からない。とうとう二三十哩も走つてコーツビルと云ふ町まで來てしまつた。ここで濃いコーヒーに眼をさましてから、すっかり自動車の検査をした所が昨日晝すぎタンクに一杯詰めておいたガソリンが殆んどなくなつてしまつて居る。さては昨夜車をあづけた車庫に人相のわるい黒奴が多數居たが、彼奴等にぬすみとられたにちがひない。生馬の眼をぬかれたわけである。ど

うも田舎者に都會は禁物だ。よく田舎道でガソリントラブルをおこし、二哩も三哩も罐をぶるさけてガソリン買ひに出かける連中を見うけるがあまり感心した圖ではない。我々も危くその眼に會ふ所だつた。

今朝發つたランカスターからフィラデルフィア迄の六十哩はあの有名な Lincoln Highway を通ることになる。此リンカンハウエイと稱するのは、北米合衆國切つての重要な街道で、大西洋岸のニウヨウクを發しヒラデルフィアを通つて西行し、セントルイス經由米大陸を横斷してサンフランシスコに出るもので、第一世の大統領の名を記念するためにかくは名つけられたものである。

此の本街道はさすがアメリカの大通りでもあるのも交通も烈しいし、それに各州でも皆力を入れて居るから維持もよくゆきとどいて居る。フィラデルフィアに近づくに連れて交通が段々多くなつてきた。それに今恰度この市で建國百五十年紀念の萬國博覽會が開かれて居るので、お上りさんが各方面から寄つてきて居る。お蔭で此街道筋も却々混

雑で沿道の商ひ人はほくほく顔だ。

都に近いただけあつて道巾も廣いし、舗装も混凝土で上ときてゐるからとても途がはかどる。豫定より早く十一時にはフィラデルフィアへ着いてしまつた。市中へ入つてから、例のデイルイトセイビングタイムで時計を一時間早めなければならぬ。即ち恰度十二時になるわけである。

下町へ段々近づいてくるとさすが大都會だけあつて、とても眼まぐるしい位繁昌して居る。市の大きさも却々大きいしそれに交通も多いので、市の中心へ來るまでに一時間もかかつてしまつた。我々は此市には別に用もないので、わざわざ下町までくる必要もないのだが、ニウジャーシー州に
出るには、どうしても之より外に途はない。將來はかくの如き場合のため市の中心地を外らして *By-pass road* を造る計畫がある由である。恰度街の真中頃まで來て例の有名なベンの銅像のある市役所の近くへさしかかつた頃、大夕立にあつたが、我々は車の中で少しも痛痒を感じない。只自動車の外側に積んでおいた荷物をずぶ濡れにしてしまつ

たには閉口した。街を歩いて居るモガモボ連が濡れながらとんでゆくの車を車の中で見て居るのも悪くない。

雨の中をしばらくドライブしてデラウエア河の渡し場まで来てしまつた。此河が州境をなして居るので、ニウジャシー州へゆくには、どうしても此渡しをわたらなければならぬ。金二十五仙を投じて渡船にのる。勿論自動車諸共だ。現在は兩州協力して此間の架橋中であるが、此サスペンション橋が出来上つたら、此近邊に異彩を放つであらう。

向ふ側へつくとところがカムデン市でニウジャシー州はここから始まる。ビクター蓄音機で有名な街だ。ニウジャシーは實に道路のよい所である。舗装も至る所完備して居るし、道路標識もよく行届いて居る。殊に之まで通つてきた所が、あまりよくなかつた故かもしれないが、この州に入つてから實に氣持がいい。カムデンからアトランチックシチーに通じて居る道路などは實に素晴らしいもので、延長六〇哩の間六十呎ばかりの中員の混凝土道路が眞一文

字に走つて居る。我々の車でさへ四五十哩位のスピードを出しても、殆んど動搖がない位である。尤もアトランチックシチーと云ふ所は、ニウヨウク邊の金持連が来る海水浴場であるから、その入口に此位の玄關があつても然るべきであらう。フィラデルフィアからは引切なしに綺麗なバスが此間を往來して客を運んで居る。こちらにも數多い自動車の仲間入りし一緒に息をもつかずに走つてしまつた。始めは松林の間を縫ふて最後の十哩程は海岸に沿つてゐるが、全てが繪の様な道路である。

午後三時頃漸くアトランチックシチーに着く。去年の夏太平洋に別れてから丸一年間、海と云ふものを全然見なかつたので潮風が何となくなつかしい。無闇に深呼吸などして見る。豫て紹介したホテルに落付いた。此土地はとても贅澤な場所だとは聞いて居たが、部屋へ入つてみて成程と感心させられる。恐らく米國中で一番派手な所かもしれない。夏期は却々混み合ふが運よく海岸に面した室が明いて居たので都合よかつた。身體中埋まつてしまふ様なアーム

チエアに身をもたせて早速王侯の氣分を味はつてみる。本日
の行程一二〇哩。

二十四日——話は少し余談になるが、茲で今例會が開か
れて居る ASSM. はアメリカンソサイエティーオブテス
チングマテリアルと稱し、アメリカ土木學會と並び稱され
る學會で、毎年この市で例會をひらくことになつて居る。

今日はそのうち道路試験の討論會が、このホテルで開かれ
るので、斯界のオーソリチーが各州から集つて居る。我々
も此會議に列席するため、わざわざミシガンから罷り出て
來たわけなのだ。昨夜は夕方から會合し今日も朝から引つ
ゞき會議が催されて居る。道路の會議は尙明日も午前中は
繼續される筈。

二十五日——午前中は會議に出席したが、午後はいよいよ
よここにお別れしてニウヨウクへ出發することになつた。

目的地まで遂目と鼻の先の様な氣がするけれどもまだ一二

〇哩もある。

例の通りガソリンを入れたり油を差したりして、いよいよ
よアトランチックシチーの町を出はづれた時はもう三時を
まわつて居た。

今度は途を眞北にとり海岸つたひにゆくのである。此道路
は幹線にあたつて居るので、手入れもよく全線凝凝土で固
めてある。途中ロングブランチ迄は大して間誤付きもせず
豫定通り六〇哩の途を二時間で來てしまつたが、之からは
いよいよ難所に乗りこまなければならぬ。と云ふのは之
から先六〇哩ばかりは海水浴場や、その他で殆んど街つづ
きであるから、どうしても途ははかどらず結局明るい内に
ニウヨウク市中に入ることは覺えない。

ベルスアボイト云ふ街で、漸くフィラデルフィアから來
たりンカンハイウエイに合した。此町を通過するのに思ひ
がけないものに出會はして、貴重な一時間余りの時間をつ
ぶしてしまつた。それは此町を横切るラクタンと云ふ大き
な河に今度州で橋梁を架設し、その開通式にぶつかつてし

まつたので、景氣付の余興や彌次馬の自動車で町中その混雑はお話にならない。交通巡查の努力も足らばこそ、何千臺と云ふ自動車に至る所立往生と云ふ有様だ。あまりあせつて氣が苛々して來たが、どうすることもならず漸くにして此町を脱け出した時は、もう八時頃で燈りもそろそろつき出す頃になつてしまつた。どうせ今日はとてもニウヨウクまでは行かれないから行く所まで行つて、泊つてしまふと度胸を据え間の出はづれのカフェーで夕飯をたべ氣をおちつけてしまつた。

目的地まで二十哩と云ふエリザベスまで來た時は、もう陽も完全に暮れて道路の標識などまるで見えない。余程此町に泊りニウヨウクは明日にしようかと思つたが、遂目の前に目的地を見ながら沈没してしまふのも残念だ。一つ勇を鼓し夜を徹してでも、ニウヨウクまで行き着いてしまふことに相談一決する。

これからはニウワーク、ジャージーシチー、ニウヨウクと颯颯たる都會の連続であるから、全然市中街路のドライ

ブとかわりない。地圖や標識は暗くてまるでわからず辻々で行先を聞きながら進むので、途のはかどらないこと夥しい。荷物を澤山積みこんだ旅行者らしい自動車のあとをつけば、大抵ニウヨウクへ行かれるだろうと思つて、ついでゆくと變な横町へ曲つてしまつたり、澤山自動車の通る道路へ出たのでこれなら間違ひあるまいと、その仲間へ入つてどこまでもついてゆくと、之が納涼の目的で河の邊をぐるぐる廻つて居る自動車であつたりして、いよいよわからなくなつてしまつた。

それでもどうにか聞き聞きして、ニウヨウク市と河一つへだてたジャージー、シチーについたのは十時頃である。ここで此ハドソン河を渡船でわたらなければならぬのだが、今度は都合よくニウヨウク市のマークをつけた、自動車をつかまへその後をつけてとうとう渡船へのりこんでしまつた。運よく渡し船の中に親切な巡查が居たが、之がミシガンの鑑札に氣がついたと見え、色々丁寧にニウヨウク市の様子を教へてくれた。

渡船は恰度四十二丁目にいたが、之から數ブロックの
くと之がタイムススクエア、ここではもう十一時半になつ
て居たが、その繁華なことは眞晝と少しもかわらない。自
動車も通りにぎつしりで、さすが世界一の大都會とうなづ
かれる。ここから左にまがると、ブロードウエイ、今度は
目的の一〇三丁目まで眞直ぐにゆけばいいのだ。自動車の

流れにのり後からどなられどなられ、押される様にしてと
うとう一〇三丁目のホテルまでたどりつくことが出来た。
例の如く荷物や自動車のあと片付けまですましてからゆつ
くりと風呂をあげ氣持のいい安樂椅子に身をもたせてうつ
とりとニウヨウクの夜景に眺め入つた。行程二二〇哩。

◎擔がれた自動車業者

自動車行政の主務省が確定したので、鬼の首でも取つたやうに喜んだのは乗合自動車業者、鐵道
省の主管に爲つたら地方鐵道と同じやうに國庫から補助でも呉れるものと思つてゐた、實際夫れば
かりに鐵道業者に引きづられて主務省確定運動をやつたものだ、愈々確定すると、補助を呉れるど
ころか、此運動は乗合自動車が鐵道を脅かすので、夫れを抑へつけて鐵道や軌道を保護しやうと言
ふ連中に擔がれてゐたことが判つて、地國駄を踏むだがモ一遅い。

今でこそ一路線一營業主義位の問題で八ヶ間敷離立てゝあるが、將來のことを能く考へて見れば
自動車税低減問題、自動車道の問題、道路損傷負擔金問題等々と、内務省の御厄介になられば梟の
附かぬ問題が澤山に残つてゐた、モ一一遍主管逆戻り運動を起そうぢや無いかと寄々相談をしてゐ
るそうだが、朝令暮改を屁とも思つてゐない内閣でも、是だけはお免を蒙りたいと手を振つてゐ
る。サテどう爲るやら。(た)